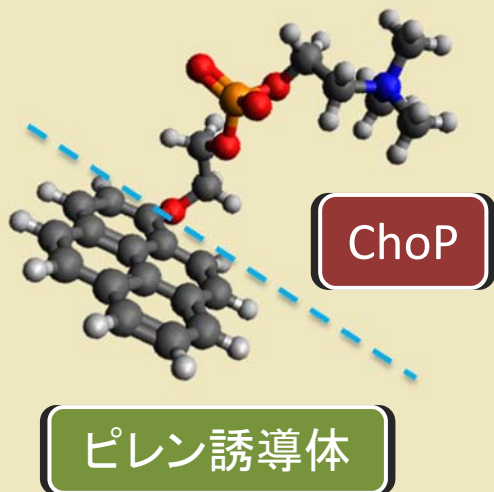
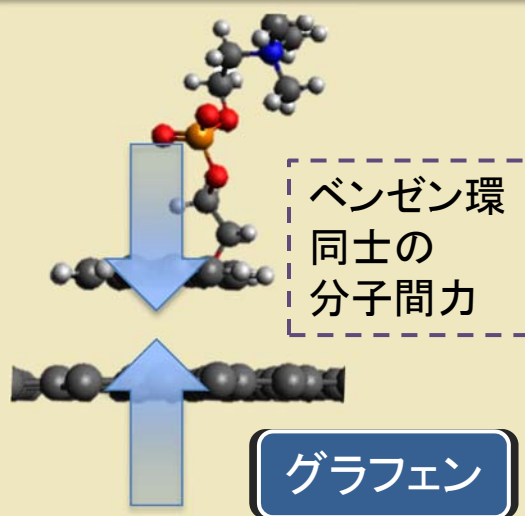


概要

近年、人々の健康に対する関心が高まっている中で、個人で扱えるウェアラブルなバイオセンサは重要な役割を担っていくと考えられます。グラフェンは特異な構造と高い移動度を持つため、高感度かつコンパクトなバイオセンサが実現できると期待されています。そのためにも、バイオセンシングの大きな障害となる非特異吸着の抑制技術開発は不可欠です。私たちは、ホスホリルコリンとピレン誘導体の新奇合成分子をグラフェン表面に修飾することでタンパク質の吸着を抑制しようと試みました。

ChoP + ピレン誘導体

 π - π 相互作用

タンパク質(BSA)濃度に対する反応

